

新しい流れをつくろう

練馬区議会議員 沖山一雄

毎年、中学校の卒業式に出席するが、必ず数名、名前だけ呼ばれる子どもがいる。長期欠席者いわゆる不登校児だ。この子たちは、義務教育である中学校を卒業した後、どうなっているのか、練馬区を調べてみた。区内公立中学校34校の平成8年度卒業生は4923名。このうち年間50日以上長期欠席者は159名、114名は高校や専門学校への進学や就職をしたが、残りの45名は、無業者と位置づけられ、どこにも行き場がない状況だ。思春期を迎え、体力もますます向上している中でこの状況は、極めて深刻である。神戸のあの少年殺人事件が練馬で起きてもおかしくない程、今教育現場は、どこでも大きく揺れている。

国でも6つの改革の一つに教育改革があげられているが、当然のことだ。しかし、私たち議員が、この状況をどこまで深刻に捉えているのか、甚だ疑問

だ。

練馬区では、12月議会で平成8年度の決算特別委員会が開かれた。教育の議論もされたが、それは従来と変わらぬものだった。校庭に金物や石が出ていて危険なので早急に対応せよとか、給食に米飯が増えているが、今の食器では糸切りがなく手にもてない。米飯に向く食器を用意せよ、といった要求ばかり。

要求のみの活動が、家庭を、社会を荒廃させているという自覚がない。校庭が荒れてきたら、子どもたち全員で整地すれば良い。このような考えに早急に切り換えていかなければならない時代なのに。

不登校児問題も、社会改革なくしては根本的な解決にはつながらない。教育改革を含め改革論議が花ざかりだが、まず要求のみの考え方を、私たち議員がやめることだ。

21世紀のライフスタイルを考える特別委員会・第4回会合に参加して

小平市 小俣一郎

いつもいろいろな観点から、ライフスタイルに焦点をあてている「21世紀のライフスタイルを考える特別委員会」。今回のテーマは「結婚・家庭」についてで、藤村哲さんが主催している会合へ飛び入り参加する企画でした。

藤村さんの主催する「結婚の意味を問う討論会」は、なんと昭和47年より継続されているもので、会報11月号でこの企画を見たとき、以前（といってもかなり前ですが）テレビか新聞かでこの「討論会」について見たような記憶があり、まだ続いているのかと驚き、日程の都合もついたので、どんなことをやっているのかと参加してみました。

☆

当日（11月20日）定刻になり、ドアの開け放たれた会場の様子をのぞき込んでみると、会議室の奥のほうに1人の男性がぼつんと座っているだけ。何となく入りづらく、待つこと数分。都民の会のメンバーが到着し、第309回目の討論会の開会となりました。

会は藤村さんの自己紹介と「発言するも自由、しないも自由。おもしろくなければ退席していただいて結構です」ということばで始まり、会の25年間のごく簡単な経緯の説明の後、フリーとキングとなりました。が、当日の参加メンバーのほとんどが都民の会の会員（藤村さんに途中から参加された方

も含めて合計12人中8人）。しかも、一言も発言されなかった方が2人いらっしゃったので、さながら、都民の会での討論会のようになっていました。どのような方々が参加しているのか興味がありましたので、それが非常に残念でした。

そのなかで、独特の考えを持たれた作家の方が、討論に積極的に関与し、自説を信念のように開陳されたのが印象的でした。

☆

勿論、テーマからして、この討論会は結果を出すものではなく、正しく、結婚を媒介にして、世相を語り合い、お互いの認識を確認し深め合うものであります。主催の藤村さんは、時に問題を提起することはあったものの、自分の考えを押しつけることはなく、終始聴き役に徹していらっしゃいました。この討論会がかくも長く継続している理由はここにあるのかなと思いました。

うっかりして、この会を続けている目的を聞くことを忘れてしまいましたが、このような会を25年も続ける理由は、そのエネルギーの源はなんであろうか・・・と思います。

都民の会3年目。維新の会から数えても5年。この継続には頭が下がります。

機会があればまた参加し、それを聞いてみたいと思います。